

農空間

第61号

発行所
福島県農林水産部
農村計画課

【特集】バックアップします！ 小水力等発電導入を 本気で考えませんか！

農業水利施設を活用した小水力等発電は、農業水利施設の維持管理費等の軽減に有効であり、特に平成24年7月より固定価格買取制度が開始され、速やかな発電導入が求められております。そこで今回は、小水力等発電導入推進に向けた最近の動きについてご紹介します。

一つ目は、「農業水利施設を活用した小水力等発電基本整備計画（以下、基本整備計画）」と「農業水利施設を活用した小水力発電導入マニュアル（以下、県マニュアル）」の策定です。基本整備計画は、過年度に導入可能性を調査した地区情報や施設整備した地区事例、さらには導入推進の目標及びそれを達成するための方策等を示した、いわば県の羅針盤とも言える計画です。

一方、県マニュアルは、具体的な導入に向けた各種調査の手法、活用できる補助事業紹介等、実務担当者のバイブルとして作成したものです。これら資料を活用の上、発電導入の加速化につなげることを期待しています。二つ目は、福島県農業水利施設小水力等発電導入推進協議会（以下、協議会）の設立につい

スを行う等の事業を実施していただきます。会費は無料です！随時、ご加入いただけますので、お気軽にお声かけください。

なお、詳しい内容については、当課または各農林事務所農村整備部までお問い合わせください。

【農村計画課】



協議会会長の櫻田土地連専務理事が、「再生可能エネルギーを積極的に導入し、土地改良施設の維持管理費の経費節減を図り、農業農村の活性化に繋げたい」とあいさつしました。

ふくしま復旧便 — 県内からのお便り —

県北

三ツ森ため池の

災害復旧工事

大玉村の三ツ森ため池は、東日本大震災により、堤体天端の中央部に亀裂が生じ、貯水機能が大きく損なわれました。

復旧については、堤体構造の安定を図るため、ため池の上流

地域に根ざした水土里ネット — 地域をうるおす水利施設と共に —

白河市土地改良区 事業係長 武藤 謙治さん

白河市土地改良区は、福島県南部に位置し、水田・畑約2,000ヘクタールを受益地としております。

管内には、白河でも有数の穀倉地帯、五箇地区があり、阿武隈川の五箇堰より取水してあります。

五箇堰は、地区内約350ヘクタールのかんがい機能を担う施設であり、築造後30年以上を経過したため、5年の工事期間を費やし、平成24年度に堰改修



完成した五箇堰の上で撮影（明治時代）



昭和40年代の五箇堰の姿



今の姿。事業できれいになりました。



これってどう動くの？授業で小学生が見学。

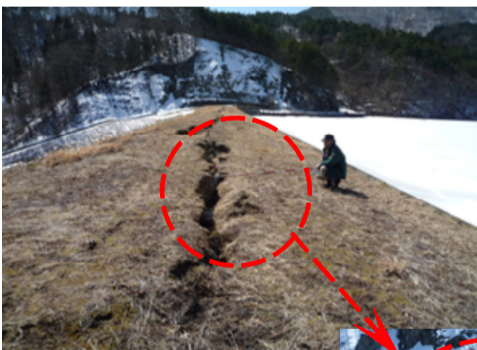
た農業生産の基盤、水利施設を通じて地域の活性化、地域農業の振興に協力して行きたいと考えております。

部及び下流部に押さえ盛土を設置します。また、地震で遮水ゾーンが損傷を受けたため、上流押さえ盛土は、遮水性材料で築造しています。

県北地域では、除染事業が各地で行われており、工事労働者を確保するのが難しく、また、碎石などの資材調達に苦慮しておりますが、地域の皆様のご協



広くて平坦だった地震前の堤体天端。



地震で亀裂と段差が。巨大地震の威力を物語っています。



今は復旧して、亀裂も段差もなくなっています。

取り組んでまいります。
【県北農林事務所
農村整備部】

福耕支援隊情報

愛媛県 平野貴司さん

農山漁村地域復興基盤総合整備事業 八沢地区は、相馬市及び南相馬市鹿島区に跨がる地域であり、明治後期から昭和初期にかけて八沢浦干拓事業により形成された水田地帯でした。しかし、東日本大震災により甚大な被害を受けました。

津波により集落流出、地盤沈下と排水機場の機能喪失による湛水。先が見えない中、遠く四国の愛媛県より平野貴司さんが福島県の支援に来てくださいました。着任1年目、八沢地区採択に向けた地元調整や、関係機関との協議調整を進め、何度も大きな壁にぶつかりながら、一歩ずつ前に進み平成25年度には工事発注に向けた設計・債務工事設計書作成、そして今年6月に八沢地区債務工事が契約・着工へたどり着きました。



排水機場が動かないため、小型ポンプで海水を排水しました。



地区住民の皆さんへ工事の計画を丁寧に説明しました。(右:水色シャツが平野さん)

平野さんは現在3年目になりますが、1年目の採択に向けた関係機関との協議調整が最もつらい時期だったとのこと。しかし、膨大な業務を抱えても、つらい姿を見せずにこなしてしまいう愛媛県の平野さんの福島復興への想い!福島への愛!ありがとうございます。

【相双農林事務所】

水産課 便り

水産課には、現在2名の農業土木職員が配属されており、それぞれの職務内容について紹介します。

まず、本県沿岸における震災関連がれきの回収事業です。

沿岸漁業の本格操業開始時に支障とならないよう、津波により漁場に流出したがれきを作業船等を使って回収するのですが、対応できる建設業者が限られており、他の震災復旧関連工事同様、計画どおりに進めることが難しい状況です。



松川浦に立木やガレキがたくさん流されてきて、浮いています。

本県には、水産種苗研究所と、ヒラメやアワビ等の放流用種苗を生産する施設が大熊町に併設されていますが、震災により大きな被害を受けたうえ、帰還困難区域に位置していることから、現地での復旧が困難となりました。



作業船から一つ一つ流木を拾い上げます。

そのために、復興交付金事業を活用し、新たに相馬市内に場所を移して震災前と同等の機能を持った施設の復旧を進めています。

蓬田直樹
平野晃史

トピックス

○第12回成果発表会を開催

平成26年8月1日に12回目となる農業農村整備事業成果発表会を郡山市の農業総合センターにおいて開催しました。県、市町村、土地改良区などの関係者約130名が参加しました。

はじめに、新潟大学フェローの有田博之氏から「災害復旧における経験の継承 現場知の体系的蒐集・整理」と題して、災害時の経験から生み出される知恵



新たに生まれ変わる水産種苗研究所 (写真は以前の研究所)

福島県関係各課の紹介 農地管理課 課長 野内芳彦

農地管理課は13人体制で、営調整・施設管理・用地換地の従来からの業務に加え、一昨年からスタートした「水土里の防災アップ運動」と「農業用ダム・ため池の放射性物質対策(ため池除染)」を担当しています。

「水土里の防災力アップ運動」は、「災害に備える「防災」だけでなく、想定外の災害に対しても少しでも被害を減らす「減災」の取り組みが必要である。」との大震災で得た教訓を活かし、

このような農地管理課を、これからもよろしく願っています。



疲れていても笑顔の農地管理課のメンバー

【農村計画課】

この発表会は、農業農村整備に係る関係者が、県内共通の課題や、様々な取り組みなどの情報を共有できる貴重な機会と考えています。今後も継続していく予定です。

編集後記

7月4日に広報研究会へ参加して、「写真の大きさにメリハリをつける」「詰め込みすぎず余白を大事にする」「写真の魅力を引き立てる言葉や言い回しを用いる」など、貴重な話を聞くことができました。そこで学んだ内容を、今回の紙面に活かしてみましたがいかがでしょうか。前回の第60号と比べて感想などいただければ幸いです。(編集担当 M・N)

『農空間』とは... 農村において繰り広げられる農業の営み、それを支える農地や水、人々の生活、そして、美しい自然に囲まれ長い間に培われた伝統・文化などが溶けあった空間のことです。